

残存する森林の伐採

ドラックス社のペレット工場はブリティッシュコロンビア州の最も希少な老齢林から丸太を調達している

はじめに

ドラックス・グループ（ドラックス社）は、英国を拠点とする企業であり、世界最大のバイオマス発電所を運営しているほか、エンビバ社に次いで世界第2位の木質ペレット生産量を有する。同社は、英国内のドラックス発電所で自社生産の木質ペレットを燃料として使用し、また主に日本の企業に木質ペレットを販売している。

ドラックス社は、2021年にカナダのブリティッシュコロンビア（BC）州最大の木質ペレット生産企業であるピナクル・リニューアブル・エナジー社を買収し、現在同州に7つのペレット工場を保有している。同社のBC州のペレット工場は、2021年に130万トンを超える木質ペレットを生産しており¹、カナダの木質ペレット総生産量の約40%を占めている。ドラックス社は、BC州の森林や森林産業から原料を調達しており、同州での事業活動は「持続可能」と主張している。

本分析は、BC州中北部に焦点を当てている。同地域では、ドラックス社のペレット工場に供給される原料は、伐採現場から直接搬入されるか、あるいは近隣の製材所からの副産物として搬入されており、すべて原生林から産出されたものである。BC州で行われている商業伐採のほとんどは、原生林で行われている。

BC州では、老齢林とは、老齢に達した原生林²であり、植物、動物、その他の生命体が十分に長い期間共存し、複雑な相互関係を発達させた生物群集から成る。大木を含む生産性の高い老齢林が同州の土地に占める割合はわずか3%

にすぎず、製材とパルプの生産を主な目的とした1世紀にわたる伐採により、現在ではその残存面積が極めて限定されている。

2021年、BC州政府は専門家委員会を招集し、伐採された場合に不可逆的な生物多様性の損失をもたらす短期的なリスクが高い最も希少な老齢林など、老齢林のタイプの特定とマッピングを行った。

これらの希少な老齢林のタイプは、専門家委員会によって短期的に伐採から保護するよう勧告されており、総称して「優先的伐採保留区域」と呼ばれている。同委員会は、短期的に伐採されるリスクが最も高い希少な老齢林の類3つの種類³（残存する老齢林、古代林、大木の老齢林）を特定した。

2020年、BC州北部を拠点とする地域団体「コンサベーション・ノース」は、同州政府がペレット企業に対し原生林の伐採許可を発行していることを報告した。2022年には、英国放送協会（BBC）のドキュメンタリー番組「パノラマ」とカナダ国営放送（CBC）の調査報道番組「フィフス・エステート」の調査で、ドラックス社がBC州の希少な老齢林やその他の原生林を伐採していたことが明らかになった。本調査では、ドラックス社のペレット工場が、ペレット生産用の丸太を、優先的伐採保留区域をはじめとするかけがえのない老齢林から今でもどれくらい調達しているのか検証する。

¹ 各工場の情報は、「持続可能なバイオマスプログラム」（SBP）の報告書に基づいている。以下からアクセス可能：<https://sbp-cert.org/certifications/certificate-holders/>

² 「OG TAP Old Growth Deferral: Background and Technical Appendices」。以下からアクセス可能：https://www2.gov.bc.ca/assets/gov/farming-natural-resources-and-industry/forestry/stewardship/old-growth-forests/og_tap_background_and_technical_appendices.pdf

³ 「Priority Deferrals: An Ecological Approach」。以下からアクセス可能：https://www2.gov.bc.ca/assets/gov/farming-natural-resources-and-industry/forestry/stewardship/old-growth-forests/summary_for_g2g_package.pdf

用語集

原生林：人間の産業活動により改変されたことがなく、風倒、火災、虫害、病気などの自然攪乱によって天然更新するあらゆる樹齢の自然林。

老齢林：地域や気候によって異なるが、一般的に、内陸部では樹齢 140 年、沿岸部では樹齢 250 年の**老齢に達した森林**。動物や植物が必要とする朽ちた木や立ち枯れた木、古い大木、ギャップ開口部などの構造的な要素に加え、多くの場合、多層の林冠も有する。ブリティッシュコロンビア (BC) 州では、すべての老齢林は原生林でもあるが、すべての原生林が老齢林というわけではない。

優先的伐採保留区域：州政府が任命した専門委員会が、緊急に伐採から保護すべきと勧告した老齢林のタイプ。優先的伐採保留区域に含まれる 3 つの老齢林タイプは、古代林、大木の老齢林、残存する老齢林である。

木材マーク：特定の伐採許可または木材が収穫された地理的位置のほか、土地所有形態などその他の特定情報を識別するために用いられる**短い参照コード**。

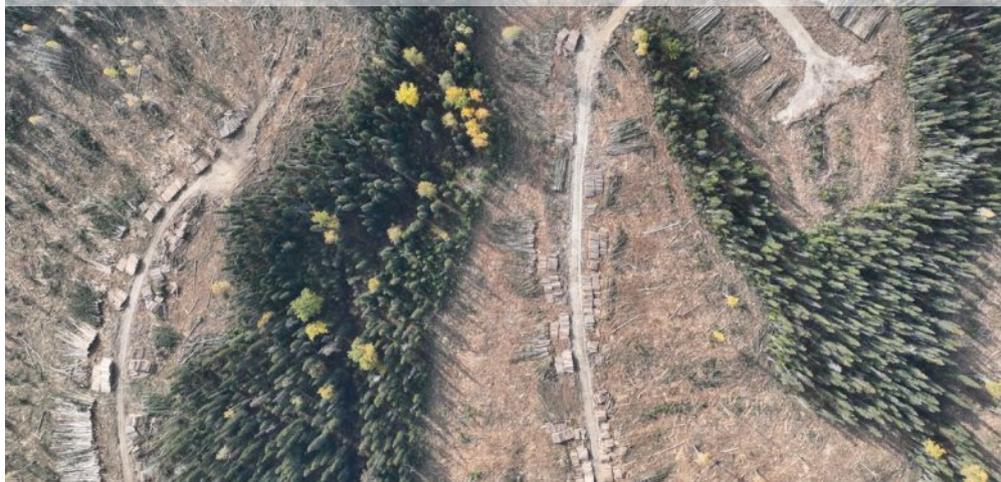
伐区：伐採が許可された、**明確な境界線のある土地の区画**。BC 州のクラウンランド（州有地）で伐採が行われる場合、木材マークは伐採許可区域と呼ばれる 1 つ以上の伐区に対応している。



調査方法

BC 州政府の伐採課金システム (HBS) は、森林作業の現場から直接ドラックス社のペレット工場に搬入されるすべてのバイオマスの材積（木材の体積）と重量に関するデータを提供しており、これらは丸太または木質チップ（「破碎木材」と呼ばれる）の 2 種類に分類されている。これらのデータから、2023 年にドラックス社のペレット工場に搬入された各種荷の詳細⁴（各サプライヤーから供給された原料の種類と量、各種荷に付与されている木材マークなど）を抽出した。

2022 年に BBC のドキュメンタリー「パノラマ」で明らかになった、ドラックス社の伐採許可区画内にある老齢林の優先的伐採保留区域で伐採が行われている様子



BC 州政府の「BC データ・カタログ」は、公有地にあるすべての森林伐区 (Forest Tenure Cutblock Polygons (FTA 4.0)) や、老齢林の区域 (Old Growth Technical Advisory Panel (TAP) - Forest Seral Stage)、老齢林の優先的伐採保留区域 (Priority Old Forest Deferral Areas - Current View) の空間データを提供している。2023 年にドラックス社の工場が丸太を調達した木材マークに関連する伐区の空間データを抽出し、老齢林および優先的伐採保留区域の空間データと比較した。

丸太が調達された伐区に存在する森林タイプの空間分析を行うために、オープンソースの地理情報システム QGIS のマッピングソフトウェアを使って伐区と老齢林の区域・

優先的伐採保留区域を重ね合わせ、2023 年にドラックス社の工場が丸太を調達した伐区（木材マークが付与された区域）の何割が、老齢林や優先的伐採保留区域に指定された森林であったかを特定した。

老齢林と優先的伐採保留区域に関する BC 州政府の空間データの正確性を確認するために、環境 NGO のコンサベーション・ノースとバルクリー・バレー・スチュワードシップ・コアリションが 2024 年 2 月に複数の伐区を視察したほか、最新の衛星画像を使用して、伐区での伐採の有無を確認した。

⁴ ドラックス社のペレット工場に搬入された丸太と破碎木材は、「ピナクル・リニューアブル・エナジー社」からの請求として計上されている。

ドラックス社は 2023 年に老齢林から丸太を調達したのか？⁵

BC 州にあるドラックス社のペレット生産工場に供給される木質材料の約 4 分の 1 は、伐採現場から直接⁶、丸太や木質チップ⁷の形で搬入されている。2023 年にはその量は約 43 万 m³ に上り、その約 60 % を丸太が占めた。残りは製材所から出るおがくずなど近隣の産業からの副産物である。

2023 年、ドラックス社のバーンズ・レイク、スミザーズ、ヒューストン、メドウバンク⁸のペレット工場は、原生林から合わせてトラック 5,000 台分を超える丸太を受け入れた。これは、約 20 万トンの木材に相当する⁹。この中には、「サルベージ」と記されたトラック約 200 台分の丸太（4 %）が含まれている。これは、火災や虫害などの自然攪乱が生じた原生林に由来する丸太である。

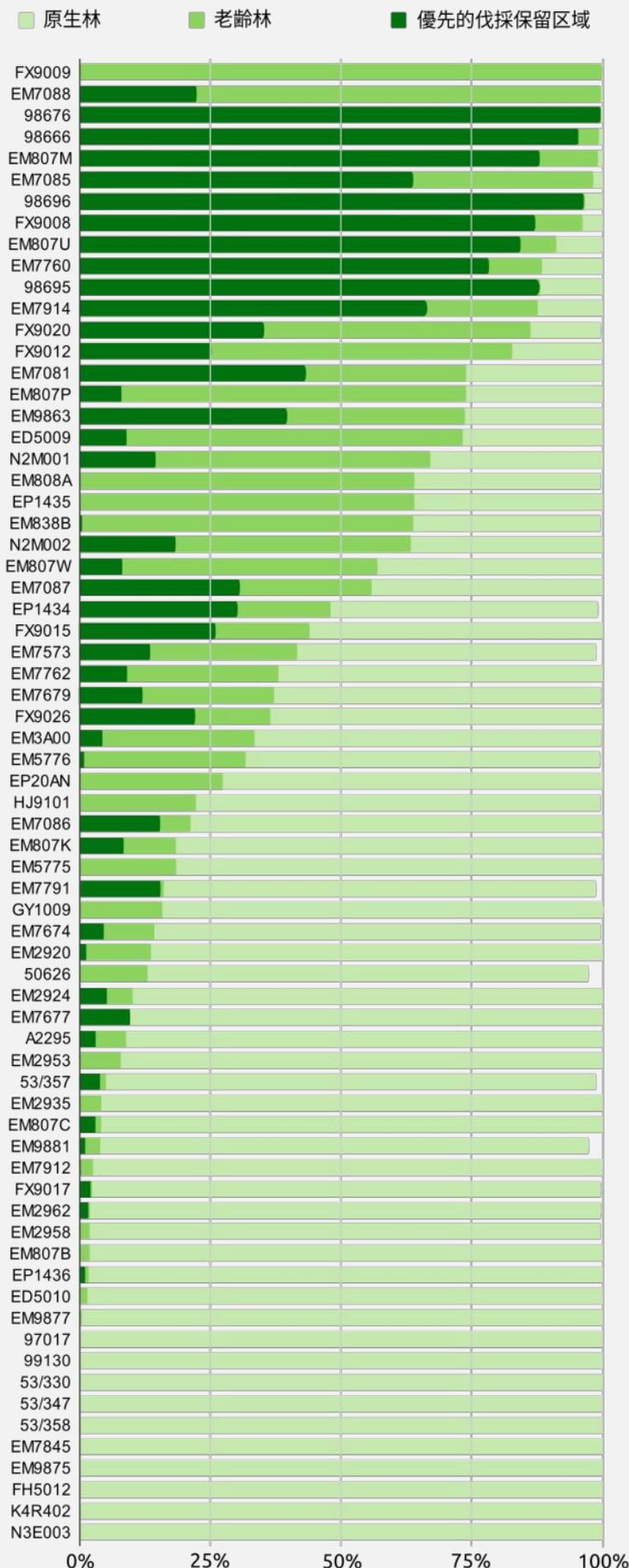
2023 年にドラックス社のペレット工場に搬入された丸太の積荷の半分強（59 %）は、各積荷の原産地を示す木材マークに対応した公開空間データが存在する土地から来ていた。一般的に、これらは公有地で、ドラックス社が丸太の積荷ごとに BC 州政府に立木料金（「スタンページ」）を支払っている。

データによると、2023 年にドラックス社の BC 州のペレット工場に搬入された丸太の多くが、優先的伐採保留区域などの老齢林から伐採された。原産地に関連する空間データがある丸太の積荷の約 60 %（1,765 台分）は、対応する伐区の面積の 10 % 以上が老齢林である木材マークの区域から搬入された。42 %（1,251 台分）は、対応する面積の半分以上が老齢林の木材マークの区域、10 %（300 台分）は、対応する面積の 90 % 以上が老齢林の木材マークの区域に由来した。

丸太の積荷の多くは、BC 州で最も危機に瀕している老齢林とされる優先的伐採保留区域からも調達された。積荷の 20 % 以上（604 台分）は、総面積の 3 分の 1 以上が優先的伐採保留区域に分類されている木材マークの区域から納入された。

2023 年にドラックス社のペレット工場は、対応する空間データのある 70 種類の木材マークが付与された丸太を受

2023年にドラックス社の工場に納入された丸太の木材マークおよび各区域に占める原生林・老齢林・優先的伐採保留区域の割合



⁵ 別段の記載がない限り、本報告書に記載されているすべての数値は、以下のスプレッドシートから引用：https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Dg7bZmxXKokFj_qiRjbL04Ca08ewBZTyHaMm2iw5Nngo/edit#gid=0

⁶ BC 州にあるドラックス社の各工場の情報は、最新の SBP 報告書から取得。こちらからアクセス可能：<https://sbp-cert.org/certifications/certificate-holders/>

⁷ 伐採課金システム（HBS）では、「破碎木材（hogged tree material）」と表記されている。破碎木材は、「伐採残渣」とも呼ばれる。

⁸ メドウバンク工場は、2022 年に大量の丸太を受け入れていたが、2023 年には搬入される丸太の荷数が前年と比べて大幅に減少し、その大半は木材マークが付与された私有地から収穫された。

⁹ 代表的な請求書を 3 通選び、総重量を荷数で割ると、丸太 1 荷あたりの平均重量は 38 トンであった。

け入れた。そのうちの 45 種類 (64 %) で、対応する土地で老齢林の面積が 10 %以上を占め、26 種類 (37 %) については面積の 50 %以上、9 種類 (13 %) については面積の 90 %以上が老齢林であった。

木材マークに対応する土地に含まれている優先的伐採保留区域については、そのうちの 25 種類 (36 %) で、対応する土地面積の 10 %以上、10 種類 (14 %) については面積の 50 %以上、3 種類 (4 %) については面積の 90 %以上を占めた。

平均すると、2023 年にドラックス社が丸太を調達した土地 (空間データのある木材マークに対応する土地) の総面積のうち、約 40 %が老齢林であり、約 20 %が優先的伐採保留区域に該当した。そして、ドラックス社が調達した丸太に付与された 3 つの木材マークが対応する土地には、広大な面積の古代林が含まれており、その 1 つについては面積の約半分が樹齢 250 年を超える老齢林であったことは重大である。

木材マークが示すデータによれば、スミザーズ工場は、相当な面積の老齢林 (総面積の 10 %以上) がある土地から搬入された丸太の数がずば抜けて多く、トラック 1,156 台分に上った。次いでバーズ・レイク工場が、同様の土地からトラック 532 台分の丸太を受け入れた。

スミザーズ工場は、ペレット製造用の原料のほとんどが伐採廃棄物であるチップ化された林地残材であるとの理解の下、林地残材の燃焼により地域住民が受けている健康被害を軽減できるとの認識で地元当局から承認を受けた。しかし、木材マークが示すデータによれば、スミザーズ工場は、相当な面積の老齢林がある土地から最も多くの丸太を受け入れただけでなく、BC 州にあるドラックス工場の中で唯一、2023 年に伐採現場から直接木質チップを受け取らず、製材所の副産物と一緒に丸太のみを受け入れた工場であることも注視すべきである。

新しい年になり、ドラックス社も生まれ変わるのか？

ドラックス社は 2024 年 1 月も、広大な老齢林や優先的伐採保留区域を含む伐区に対応する木材マークの丸太を調達し続けた。具体的には以下の通りである。

木材マーク	伐採企業	ペレット工場	丸太の荷数 (トラック台数)	老齢林のタイプ
EM2960	バビーン・フォレスト・プロダクツ社	バーズ・レイク	64	46 %が老齢林
EM2963	バビーン・フォレスト・プロダクツ社	バーズ・レイク	31	46 %が優先的伐採保留区域にある大木の老齢林
FX9012	キャンフォー社	ヒューストン	8	83 %が老齢林、25 %が優先的伐採保留区域にある大木の老齢林

写真：ドラックス社が 2023 年に丸太を調達した、木材マーク FX9020 に関連する伐区内の伐採現場

木材マークに関するケーススタディ

次の3つの木材マークとそれに対応する伐区は、2023年にドラックス社のペレット工場が丸太を調達した伐採現場の例である。2024年2月、コンサベーション・ノースとバルクリー・バレー・スチュワードシップ・コアリションのメンバーは、森林タイプと伐区の状態を確認するためにこれらの区域を視察した。

EM807M

ドラックス社の受入丸太荷数：130

受入材積：5,983m³

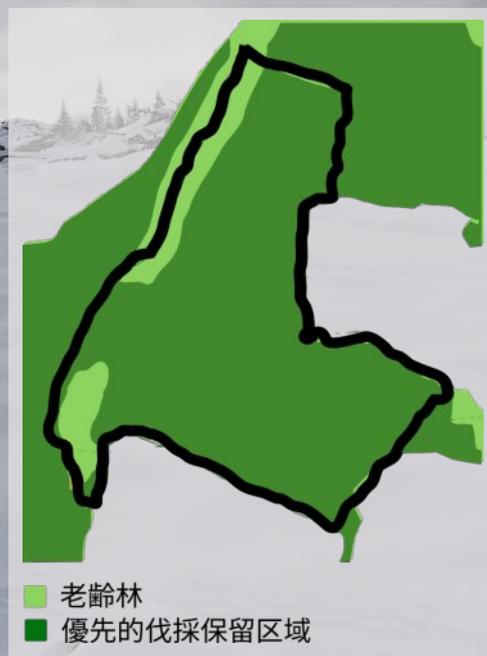
総伐採材積に占める割合：26%

伐採企業：キャンフォー社

老齢林の割合：99%

優先的伐採保留区域の割合：88%

2022年9月から2023年3月までの間、ドラックス社のバーズ・レイク工場は、トラック130台分の丸太を木材マークEM807Mが示す土地から受け入れた。これは、同区域から伐採された総材積の4分の1を超える。この木材マークに紐づけられる唯一の伐区は皆伐されており、すべての森林が老齢林であり、そのうちの88%が優先的伐採保留区域内の大木の老齢林であった。



皆伐されたEM807Mの対象伐区（2024年2月の視察時に撮影）

木材マークEM807Mに関連する伐区の真ん中に廃棄された林地残材には、切り出された丸太も投棄されている

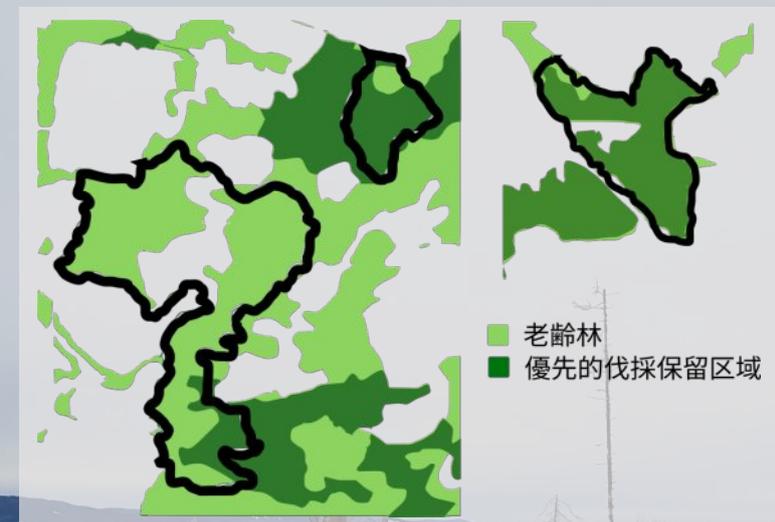


FX9020

ドラックス社の受入丸太荷数：46
受入材積：2,613m³
総伐採材積に占める割合：8%

伐採企業：キャンフォー社
老齢林の割合：86%
優先的伐採保留区域の割合：35%

ドラックス社のバーズ・レイク工場は、2023年2～3月に木材マークFX9020付きの丸太をトラック46台分受け入れた。この木材マークに対応する3つの伐区のうち、1つは総面積の20%が樹齢250年を超える古代林であった。2つ目の伐区は、全域が樹齢149年と推定される大木の老齢林であった。この木材マークに対応する3つ目の伐区は、大部分が樹齢149年の老齢林で覆われていたが、残存するのは半分ほどで、伐採が進んでいる。



EM7760

ドラックス社の受入丸太荷数：36
受入材積：1,594m³
総伐採材積に占める割合：11%

伐採企業：ウエスト・フレイザー・ミルズ社
老齢林の割合：88%
優先的伐採保留区域の割合：78%

2023年8月から10月にかけて、ドラックス社のスマイザーズ工場は木材マーク EM7760 付きの丸太をトラック 36 台分受け入れた。この木材マークに関連する面積（6つの伐区を含む）の約 90%が老齢林、約 80%が優先的伐採保留区域に分類されていた。総面積の 61%が大木の老齢林、47%が古代林であった。



木材マーク EM7760 に関連する伐採済み区画の境界に残る優先的伐採保留区域



EM7760 に関連する別の伐採済み区画の境界に隣接する老齢林

2023年に老齢林からの木材をドラックス社に供給した企業は？

ウエスト・フレイザー・ミルズ社は、2023年に最も多くの丸太をドラックス社のペレット工場に供給した企業であり、ドラックス社のペレット工場に納入された総荷数の4分の1近く（1,200台分超）を占めた。大手製材企業のカナディアン・フォレスト・プロダクツ（キャンフォー）社とバビーン・フォレスト・プロダクツ社も、2023年にドラックス社のペレット工場に大量の丸太を供給した主要企業であった。これらの企業が供給した丸太の合計は、2023年にドラックス社のペレット工場が受け入れた丸太の40%を超えた。

ドラックス社は、コミュニティ・フォレスト協定や先住民林業協定に基づく供給だけでなく私有地からも大量の丸太を受け入れたが、これらの木材マークに関連する土地についての公開された空間データがないため、丸太が調達された森林のタイプを評価することができない。積荷の約半分は、空間データのない木材マークの区域から納入された。特に、バーンズ・レイク・コミュニティ・フォレスト社は、2023年にドラックス社の工場に供給した丸太が2番目に多かった（661台分）。

公開された空間データのある木材マークの土地について、ウエスト・フレイザー・ミルズ社から搬

入された丸太の積荷の約4分の3（886台分）は、老齢林が10%以上を占める木材マークの土地に由来するものであった。平均すると、ウエスト・フレイザー・ミルズ社の木材マークの対象となっている土地の38%が老齢林、20%が優先的伐採保留区域であった。

木材マークが示すデータによれば、キャンフォー社により搬入された丸太の積荷の80%（332台分）以上は、老齢林が10%以上を占める土地に由来するものであり、そのうちの4つは、老齢林が90%以上を占める土地に由来した。平均すると、ドラックス社の工場がキャンフォー社から調達した丸太は、58%が老齢林、24%が優先的伐採保留区域に由来するものであった。

ドラックス社の丸太供給業者トップ5（2023年）

伐採企業	丸太の荷数（トラック台数）
ウエスト・フレイザー・ミルズ社	1216
バーンズ・レイク・コミュニティ・フォレスト社	661
バビーン・フォレスト・プロダクツ社	599
キャンフォー社	411
ウェツィンクワ・コミュニティ・フォレスト社	171

木材マーク FX9020 に関連する伐区で最近伐採された老齢林



ドラックス社が BC 州で調達している丸太について、明らかになっていないことは？

空間データのない木材マークが付与された丸太は、どのような森林タイプから収穫されたのか？

2023年にドラックス社のペレット工場に搬入された丸太の積荷の約半数には、公開されている空間データがない伐区に関連する木材マークが付いていた。ドラックス社全体で第2位の丸太供給業者であり、バーンズ・レイク工場に最も多くの丸太を供給したバーンズ・レイク・コミュニティ・フォレスト社は、9万2,000ヘクタールの森林を管理している。

バーンズ・レイク・コミュニティ・フォレスト社はドラックス社と供給契約を結んでいるが、この広大なコミュニティ・フォレストのどこから丸太が伐採されたのかについては公開情報がなく、同社は情報の提供を拒否している。1万4,000ヘクタールの森林を管理しているダン

ゲート・コミュニティ・フォレスト社も、2023年にバーンズ・レイク工場にトラック149台分の丸太を供給したが、同社も納入した丸太の産地に関する情報を提供していない。

また、私有地から来た丸太に付与された木材マークについては、関連する空間データを見つけることができないため、これらの木材マークの丸太が老齢林から調達されたかどうかを判断することはできない。2023年には、合計でトラック約1,000台分の丸太が、そのような私有地からドラックス社のペレット工場に納入された。

ドラックス社のペレット工場に搬入されている丸太の種類とは？

ドラックス社の工場に搬入されるすべての丸太の積荷は、内陸部で収穫された低品質木材の代替的な検収方法を定めた「残材同時伐採制度」(Concurrent Residual Harvest System: CRHS) 認可の対象となっている。この制度では、収穫された木材の「二次」使用者に分類される検収場は、積荷の重量を計測するだけでよく、等級付けは任意で行われる。これにより、伐採企業やペレット工場は、検収手順を簡略化し、時間とコストを節約することができる。

ドラックス社の工場に搬入されるすべての丸太の積荷は、以下の比率で検収されている：グレード1および2（製材用）=2.9%、グレード4（パルプ用）=85.7%、グレード6およびZ（廃棄物）=11.5%。つまり、ペレット工場に入荷される丸太の等級については、公開されている正確な記録がないということになる。ただし、グレード4の丸太はパネル製造業者やパルプ製造業者でも使用できるほか、フェンスの支柱などの製品にも使用できるため、バイオエネルギー以外の用途がない木材に分類されるのは丸太の11.5%にすぎないと想定される。

このトラック運転手によると、グレード4の丸太はドラックス社のペレット工場やパルプ工場に納入される（2024年2月撮影）





スミザーズペレット工場の近くの伐採現場に廃棄されているグレード4の丸太

ドラックス社のヒューストン木質ペレット工場の丸太置き場

ドラックス社が2022年と2023年に丸太を調達した伐区（木材マーク：EM807M）に廃棄されている丸太



破碎木材になる丸太の量は？

ドラックス社がBC州の伐採現場から直接調達する木質材料の総量のうち、約40%が木質チップ（破碎木材または伐採残渣とも呼ばれる）として搬入されている。伐採作業が終了すると、粉碎機が伐区に持ち込まれ、現場で焼却されるはずの林地残材がチップ化され、トラックでペレット工場に運ばれる。

例えば、2023年にはウィリアムズ・レイク工場は、破碎木材のみを受け入れており、丸太は一切受け入れなかった。同工場の少なくとも2社のサプライヤー（ツイデルデル・エンタープライズとウィリアムズ・レイク・コミュニティ・フォレスト・パートナーシップ）は、森林再生プロ

ジェクトを支援する組織・BC州森林回復力強化協会（Forest Enhancement Society of BC：FESBC）から、伐採現場から破碎木材を搬出し、ペレット工場に納入するための補助金を受けている。

しかし、どのような原料がチップ化されているかを公に検証する手段はなく、ドラックス社の発電所が樹皮の含有量が少ない高品質のペレットに依存していることから¹¹、同社のペレット工場に破碎木材として搬入されているものの大部分は、実際には立木を伐採した丸太である可能性が高い。

ドラックス社の木材調達にはBC州の伐採量増加にどの程度寄与したか？

BC州の内陸部では、約20年にわたり「クレジット」制度が運用されており、森林の利用権者がこの制度に従って操業している場合、いわゆる低質な木質繊維（グレード4と呼ばれる）の採取は、利用権者の年間許容伐採量（AAC）に計上されない。この制度の下、伐採企業は、グレード4の丸太をトラック1台分収穫して最終利用者に納入することによって、どんな品質の丸太でも同じ量を追加で伐採することができる。これは、BC州政府が伐採量を管理できる数少ない方法の一つを骨抜きにするものであり、より多くの伐採を促す大きなインセンティブとなっている。

この制度が2006年に開始されて以来、何百万本の木が追加で伐採されたかについては公的な記録がないが、グレード4のクレジット制度は、「立法化されたAACプロセスの外に国民の木材を割り当てる、不正かつ詐欺的な制度」と評されてきた。そのため、この制度の下でドラックス社のペレット工場に搬入されるすべての丸太の積荷が、同量の丸太の追加的伐採を促している可能性があり、BC州におけるドラックス社の丸太調達による影響を、大幅に拡大するおそれがある。

¹¹ 英国政府への情報公開請求で確認。こちらからアクセス可能：<https://www.biofuelwatch.org.uk/docs/DECC%20FoI%20EIR%2013-0340%20Q1%20Documents%20Drax%20etc%209May%202013.pdf>

結論

2022年にBBCのドキュメンタリー「パノラマ」とCBCの調査報道「フィフス・エステート」が、ドラックス社による原生林（優先的伐採保留区域の老齢林を含む）の伐採を明らかにして以来、同社の調達方針は、すべての木材を他社から調達するように変更されたようだ。しかし、本調査が示すように、この方針変更は老齢林の木々の伐採を防ぐ措置としてほとんど機能しておらず、守るべき木々がBC州にあるドラックス社の工場に供給され続けている。

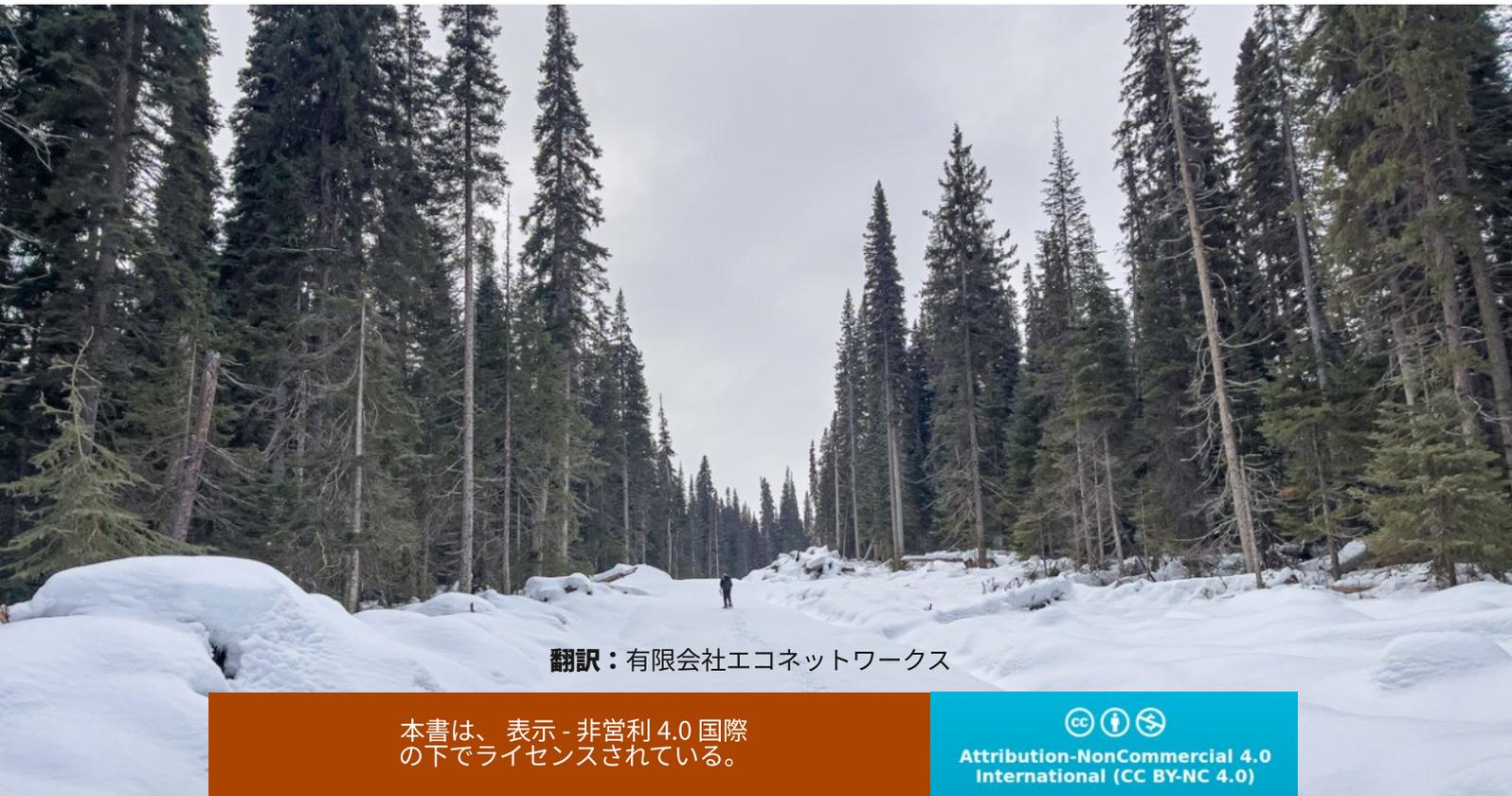
本調査では、木材マークが示すデータを分析し、2023年を通してドラックス社が優先的伐採保留区域に指定されている大木の老齢林や古代林などの老齢林を含む伐区から、立木を定期的に調達していた明白な証拠が見つかった。そうした丸太の大半はスミザーズとバーンズ・レイクにあるドラックス社のペレット工場に送られ、少量がヒューストンの工場に送られた。入手可能なデータによると、ウエスト・フレイザー・ミルズ社は、老齢林や優先的伐採保留区域が含まれている伐区からの丸太を最も多く供給した。これらの森林から伐採された丸太をその次に多く供給したのはキャンフォー社である。

コミュニティ・フォレスト協定や先住民林業協定に基づく供給と私有地から搬入された積荷については、公開されている空間データがないため、2023年にドラックス社の工場に納入された丸太の積荷の約半分は、調達元の森

林タイプを判断することが不可能である。さらに、大量の丸太が工場に到着する前にチップ化されている可能性があることから、本調査ではドラックス社が老齢林から調達している丸太の規模が過小評価されていることは、ほぼ間違いない。また、ドラックス社の丸太の調達は、BC州のグレード4のクレジット制度により、大量の老齢林の追加的伐採につながっている可能性が高い。

ドラックス社と供給元の伐採企業の双方が、世界的に重要な老齢林の破壊に加担している。そして、BC州政府は、優先的伐採保留区域の産業伐採を許可することによって、著しくその破壊を可能にしており、その慣行は州内のほとんどの地域で阻止されることなく続いている。

世界規模での生物多様性の危機が深刻化する中、BC州は、いかなる目的であろうとも、すべての（手つかずの）原生林の伐採許可をやめなければならない。これには老齢林や優先的伐採保留区域だけでなく、最近火災や虫害が発生した原生林も含まれる。さらに、英国と日本の両政府は、木質ペレットの燃焼に対する再生可能エネルギー補助金を廃止しなければならない。なぜなら、その補助金制度がドラックス社のBC州での慣行を含む同社のビジネスモデルを可能にしているからである。



翻訳：有限会社エコネットワークス

本書は、表示 - 非営利 4.0 国際の下でライセンスされている。


Attribution-NonCommercial 4.0
International (CC BY-NC 4.0)